

よこ あな しき せき しつ 岐阜県の横穴式石室

成瀬 正勝

3世紀から7世紀にかけて、日本列島の各所に「古墳」と呼ばれる土を盛り上げた大きな墓が築かれます。前方後円墳に代表される規模の大きな古墳は、権力を持った人、又はその一族のための墓と考えられています。こういった墓を盛んに築く時代を「古墳時代」と言い、3～4世紀を古墳時代前期、5世紀を古墳時代中期、6世紀以降を古墳時代後期と呼びます。

古墳は、盛り土や死者を葬る施設の大きさと形、死者とともに納められた副葬品と呼ばれる品々の種類と量などにそれぞれ個性があり、葬られた死者が生前に持っていた権力の強さや畿内の政権とのつながりの度合いなど、その地域の政治や支配の様子を調べる手がかりを私たちに残してくれています。

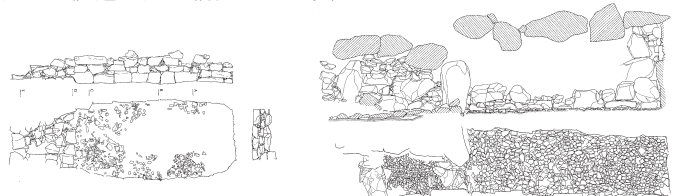
今回紹介する「横穴式石室」とは、古墳時代後期を中心に古墳のほぼ中央の盛り土の中に石を積み上げて造られた、死者を葬るための部屋(石室)です。現在、岐阜県内で見学できる横穴式石室へ行くと、まず、小さな山のような古墳の横に洞窟のような穴が開いていることに気がきます。穴の入り口から中をのぞくと、壁も天井も石で造られた細い通路が見えます。この通路を「羨道」と呼びます。羨道へ入って進んでいくと、幅も高さもひととき広い空間に出ます。これが死者を葬る「玄室」という部屋です。かつてはここに千数百年ほど前の人々の亡骸が横たわっていたのです。岐阜県の横穴式石室は、入り口から玄室の奥までの長さは5メートル前後のものが最も多いですが、高山市のこう峠口古墳や垂井町の南大塚古墳の石室など、15メートル近くもある巨大なものもあります。

当時の人々は、木や石の棺に入れた死者を玄室に運び込み、首飾りや耳飾りを付け、傍らには生前に使っていた刀や弓矢などの武器を置き、玄室の中で須恵器という土器を使って別れの儀式を行った後に羨道を引き返して入り口を石や土でふさぎます。この石室の機能で特筆すべきことは、さらに死者がでると、ふさいだ入り口を開けて次々に葬ることができることです。これを「追葬」といいます。大垣市の花岡山5号古墳の石室からは、大人から幼児まで、合計24体分もの人骨が発見されており、追葬が盛んに行われたことを示しています。この追葬を可能にした機能は、古墳時代前期・中期を中心に造られた「竪穴式石室」と呼ばれる石室とは大きく異なるものでした。

横穴式石室は、日本で考え出されたものではなく、朝鮮半島から伝えられました。最初に採り入れたのは朝鮮半島との交流が

盛んであった北部九州地域(佐賀県や福岡県)で、4世紀終わり頃から造り始めます。一方、それとは別に当時の政権の中核があった畿内地域(大阪府や奈良県)でも百年ほど遅れて5世紀終わり頃から造り始めますが、すでに北部九州地域にあった横穴式石室ではなく、新たに朝鮮半島から採り入れています。約百年の時期差は、二つの地域の石室形態に大きな差をもたらしました。朝鮮半島でも、百年の間に横穴式石室は少しずつ変化してきたからです。また、二つの地域は受け入れた形態に改良を加えて独自の石室を完成させます。そして、この二つの地域から日本の各所に横穴式石室が広まった結果、地域によっては二つの形態が同時に存在することがあります。二つの地域からの波は、岐阜県にも押し寄せました。

岐阜県内に横穴式石室が初めて採用されたのは、6世紀初め頃です。その当初から二つの形態はあり、「北部九州系石室」と「畿内系石室」と呼び分けて研究されています。当センターが発掘調査を行った古墳の中にも両者が見られ、多治見市の元三ヶ根1号古墳は北部九州系石室、池田町の南高野古墳は畿内系石室であることが分かっています。二つの古墳はともに6世紀半ば頃にほぼ同時に造られていながら、図のように、積み上げる石材の大きさ、羨道の形と構造などが異なります。



元三ヶ根1号古墳の石室

南高野古墳の石室 0 1 2m

岐阜県内で見られる二つの石室形態は、地域や時期により変化があるようです。6世紀半ば頃まで、美濃地域では比較的大きな古墳に両者が造られます。しかし、6世紀後半になると、畿内系石室は大きな古墳に、北部九州系石室は小さな古墳に限られるようになり、さらに北部九州系石室は形態が崩れてこの地域独自のものに変化して消滅していきます。飛騨地域では、6世紀後半まで北部九州系石室が独占し、その後は美濃地域と同様に大きな古墳には畿内系石室が採用されるようになります。初期には二つの形態は、同等の立場にあったのが、後には畿内系石室が優位に立っていきます。

横穴式石室を持つ古墳は、県内に数多く造られました。古墳時代前期や中期の横穴式石室を持たない古墳が100基程度であるのに対して、後期の横穴式石室を持つ古墳は数千基があります。前期や中期の古墳は、規模が大きく地域の大首長の墓であるのに対して、後期の古墳は小さく、当時少しずつ力を付けてきた数多くの中小の首長層とその家族たちの墓だったと考えられます。畿内系石室が徐々に県内に広く浸透していったのは、畿内の政権によって中小の首長層に対する支配が強まっていった結果と考えることができます。

あゆみ



平成19年度の組織(平成19年7月1日現在)

財団役員

副理事長	伊藤 克己	岩田 重信
常務理事	田口 久之(兼文化財保護センター所長)	
理事	坂本 由之	篠田 薫
	篠田 英男	杉山 博文
	鈴木 誠	竹内ゆみ子
	玉井 博祐	所 鳳弘
	八賀 晋	益川 浩一
	真鍋みさを	丸山幸太郎
監事	宮田 敏光	吉田 豊
	山田 賢二	古田 和明



文化財保護センター職員

常務理事兼所長	田口 久之		
経営部			
経営課	課長	加藤 美好	
	主査	高井 和子	
	主任	高澤 信宏	山崎 護朗
	事務専門職	古川 裕子	
調査部	部長	北村 厚史	
調査第一課	課長	成瀬 正勝	
	課長補佐	春日井 恒	石井 照久 野々田光則
		香田 明彦	北村 昌弘
調査第二課	課長	谷村 和男	
	管理監	林 直樹	
	課長補佐	吉田 靖	河合 洋尚 小野木 学
	学芸主事	三島 誠	
	事務補助員	菅原 祐子	
飛驒出張所	飛驒出張所長	谷口 陽一	
	課長補佐	相馬 重典	渡邊 稔 小淵 忠司
	学芸主事	稲垣 洋志	
	事務専門職	田口絵里奈	

センター年間行事予定

教育普及事業予定

- 7月21日(土) 岐阜県発掘調査報告会(多治見市文化会館)13:00~
- 7月24日(火)) 夏休みキッズ考古学一縄文土器づくり(三田洞事務所)
- 25日(水))
- 7月26日(木) タイムスリップ探検隊一親子で発掘体験一与島B地点遺跡・ウバガ平遺跡(高山市)
- 8月 1日(水) タイムスリップ探検隊一親子で発掘体験一荒尾南遺跡(大垣市)
- 8月22日(水) 夏休みキッズ考古学一野焼き(三田洞事務所)(雨天順延)
- 10月18日(木)) 発掘速報展(県民ふれあい会館・岐阜市)
- ~30日(火))
- 11月 8日(木)) 発掘速報展(飛驒の山樵館・飛驒市)
- ~25日(日))

現地説明会

- 6月30日(土) 有坂薬師堂遺跡(郡上市)
- 10月20日(土) 与島B地点遺跡、ウバガ平遺跡(高山市)
- 10月27日(土) 広畑野口遺跡(各務原市)
- 11月17日(土) 荒尾南遺跡(大垣市)

展示予定

- ・県民ふれあい会館2階「生涯学習センター展示コーナー」(4月~6月、11月~12月)
 - ・ハートフルスクエアG「キュービックギャラリー」(JR岐阜駅2階 平成20年2月)
 - ・県政資料館(山県市 4月~3月)
- ※3つの施設で定期的に展示します。ぜひご覧ください。

センター日誌

- 3月31日(土) 職員転出9名
- 4月 1日(日) 職員転入12名
- 4月12日(木) 整理作業開始(三田洞事務所・飛驒出張所)
- 4月20日(金) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会ブロック会議(愛知県)
- 4月23日(月) ウバガ平遺跡・与島C地点遺跡・有坂薬師堂遺跡・広畑野口遺跡・荒尾南遺跡発掘調査開始
- 5月15日(火) 美濃市立中有知小学校6年生58名
広畑野口遺跡発掘体験
高山市立国府小学校1年生88名 飛驒出張所見学
- 5月18日(金) 郡上市立川合小学校6年生15名
有坂薬師堂遺跡見学
- 6月27日(水) 与島C地点遺跡発掘調査終了
- 6月28日(木) 与島B地点遺跡発掘調査開始
- 6月30日(土) 有坂薬師堂遺跡現地説明会

あとがき

今年度は県内4カ所で発掘調査を行っています。このうち大垣市の荒尾南遺跡では、昨年、弥生時代の銅鐸の一部、銅鏡、竪穴住居跡など多くの遺物や遺構(地面に残された人の生活の跡)を発見しました。今年も引き続き約10,000m²の調査を行うことになっています。

荒尾南の発掘現場に立つと、今から1,800年も前にここに大集落が形成され、先人たちが水田耕作を営み、自然を敬い祈りをささげながら集団生活していたことに感慨を覚えます。発掘の魅力は、土の中に眠っていた歴史の証言者を丁寧に掘り起こし、その時代の空気を感じ取り、社会の様子を明らかにすることだと考えます。

今年も新たな発見に期待を寄せながら、地道な発掘・整理作業に取り組んでいます。現地説明会、タイムスリップ探検隊(発掘体験)、出前授業、考古学講座など、当センターが主催する行事も多くあります。多くの方が参加され、考古学の魅力を感じていただければと思います。

センター掲示板

親子で発掘・整理体験!

タイムスリップ探検隊 参加者募集中!

対象: 県内小学校5・6年生とその保護者
参加費: 無料
定員: 各50名前後

飛騨
地区

日時 平成19年7月26日(木) 午前9時～午後4時
雨天順延 (7月27日まで)
場所 与島B地点遺跡・ウバガ平遺跡(高山市上切町)・高山市風土記の丘学習センター(高山市赤保木町)
申込先 飛騨出張所 TEL.0577-72-4784 FAX.0577-72-4690

美濃
地区

日時 平成19年8月1日(水) 午前9時～午後4時
雨天順延 (8月2日まで)
場所 荒尾南遺跡(大垣市荒尾町)
申込先 三田洞事務所 TEL.058-237-8553 FAX.058-237-8551

応募方法

応募者全員の氏名(児童・保護者)・住所・電話番号・学校名・学年・性別・希望コース名(飛騨・美濃)を明記の上、7月13日(金)までに、電話・FAX・メールのいずれかでお申し込みください。



▲(H18) タイムスリップ探検隊 (美濃・発掘体験)
▼(H18) タイムスリップ探検隊 (飛騨・集合写真)

夏休みキッズ考古学 参加者募集!



対象 県内小学校5・6年生、中学校1年生とその保護者
参加費 無料
定員 先着24名
日時 7月24日(火) 25日(水)、8月22日(水)
場所 文化財保護センター 三田洞事務所
応募方法 7月2日(月)～7月6日(金) 午前9時～午後4時まで
TEL.058-237-8553 担当:調査部・菅原まで



※電話でのみの応募となります。 ▲(H18)夏休みキッズ考古学 土器づくりの様子

「出前授業」「職場体験」「発掘体験」 等のご希望にお応えします!

文化財保護センターでは、「子どもたちに本物の土器を見せたい・触らせたい」「発掘調査を友達と体験してみたい」「わかりやすく考古学を教えてほしい」「職場体験をさせてほしい」という皆様の声に常にお応えしています。当センターまでお気軽にご相談ください。



▲美濃市立中有知小学校6年生発掘体験(広畑野口遺跡H19.5.15)



▲高山市立中山中学校2年生職場体験(飛騨出張所)(H18.8)



▲大垣南高校2年生日本史B出前授業(H18.7)

お申し込みいただいた個人に関する情報は、申し込み後の連絡のみに利用させていただきます。

Center News

ホームページ

▶ <http://www.maibun.gifu-net.jp>

三田洞
事務所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail: gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨
出張所

〒509-4122 岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail: hida@maibun.gifu-net.jp